



晩秋の候、会員の皆様お元気でお過ごしでしょうか。初雪が降ったところも多いのではないのでしょうか。これからの冬場は積雪、凍結などで道路状況が悪くなります。傾聴訪問の際はどうぞ十分に注意なさってください。



南信ブロック 傾聴みみずく・傾聴やまぼうし・傾聴のぞみ 主催の「傾聴ボランティアスキルアップ講座（日本傾聴ボランティア協会 鈴木絹英先生）」の報告を投稿していただきましたので掲載します。

**「傾聴ボランティア・スキルアップ講座」
受講報告**

2018年10月3日（水）講師：鈴木絹英先生

はら村傾聴ボランティアグループのぞみ 出口富美子

鈴木絹英先生のいつも通りの軽妙な語り口で研修はスタートした。変わらぬお元気なお姿に安心。午前中はたっぷり2時間を費やして、予め提出されていた9題の質問に対して丁寧に解説がなされた。印象に残った内容として、「傾聴活動が技術になってしまいそう」という質問に対し、傾聴で一番大切なのは『人間性』ではあるが、相手の尊厳を尊重した活動をする上で、技術も必要である。重要な技術は、共感・繰返し・共有・受容などと多くはない。この技術を意識しないで使いこなせるようになって欲しい。サロンなどに参加できる方よりも、『独居の高齢者』が対象となる個人宅訪問の機会を増やして欲しい。個人宅訪問で実績を作り、傾聴ボランティアは地域福祉を担う一環であることを行政に認識させる努力をして欲しい。

午後は、『ピア・サポートで傾聴力アップ!』と題し、新しい研修方法が実施された。ロールプレイの登場人物は、話し手、聴き手のほか、ファシリテーター（進行役）の3名。ファシリテーターは、話し手、聴き手によるデモンストレーションの後、観察者より感想・意見を求め、それに対して違う見解はないか等、観察者のさらなる発言を引き出し議論を誘導する役目を担う。最終的に、それら意見が傾聴の基本に対して妥当性があるかの意見集約をする。この研修では、ファシリテーターの力量が問われる。グループの定例会でぜひ行ってほしいとのこと。

研修の締めくくりは、今後の課題として、①各自、自分の活動の目的を認識する、②活動の目的をグループ間で共有する、③傾聴の対象の範囲を広げる（例えば、子育て中の親、家族の介護をしている人 etc）の三点が挙げられた。また、グループ内のみならず、他グループとの交流会をもって親睦を深め、切磋琢磨して欲しいとのことでした。

PRRRRR 情報をお寄せください

養成講座・スキルアップ講座・各種研修会など、会員の皆さんが参加できるものがありましたらご連絡ください。会報紙面で広くお知らせいたします。申込期日など間に合うようにご連絡ください。会報の発行予定は3月・7月・11月を予定しています。連絡先は、長谷川代表あて。案内チラシ等同時に送付してください。

役員会報告

8月10日（金） 諏訪湖ハイツ 基礎講座運営について
10月18日（木） 諏訪湖ハイツ 基礎講座運営 野原の歌15号 来年度総会について

長野県傾聴ボランティア連絡協議会
代表 長谷川 昭 TEL FAX 0264-48-2133
携帯 09043981187
male kimama2@ot.kiso.ne.jp



会報担当 弓削淑子
TEL FAX 0266-74-1122
male yugetora@po30.lcv.ne.jp
☎ 391-0115 諏訪郡原村原山17217-2199

グループ紹介NO.10

飯山傾聴の会

菅原 真一



「野原の歌」11月号が発行される頃には、もう飯山には初雪が舞っていることでしょう。飯山傾聴の会は、県ボランティア養成研修を受講した有志数名で平成20年に結成されました。平成23年の長野県北部地震の際は会の総力を挙げて栄村まで通ったものですが、会結成以後十年が経過した現在、最多で十数名在籍していた会員は徐々に減少し今では六名で細々と活動している状況です。

活動は個人宅や各種施設訪問が主ですが、施設訪問では個人対応としています。会の希望としては、傾聴することにより相手の方の心の負担が少しでも軽くなる、または心が和むような傾聴ができればと思うのですが、単に話し相手を求めて傾聴を依頼されるケースもありそれも傾聴の一つの活動と思い対応しています。

また認知症の方やその家族の方を支援している「飯山市認知症キャラバン・メイト連絡会」ともタイアップし認知症カフェなどに参加、傾聴を希望される方のお話しを伺っています。

活動で困るのがこれから迎える冬、雪の季節です。車の運転には慣れていないといえ怖い思いをした会員も多く、山間部や北部の豪雪地域のお宅から要請があってもお断りするしかありません。多くの雪に囲まれ身動きできない方々の心情を思うと、申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

定例会は毎月開催し各会員からの活動の成果や問題点の報告を受け、検討し共有しています。別れる時にありがとうと言われた、表情が明るくなったなどの報告があると、定例会の雰囲気までもが明るくなり遣り甲斐を感じます。

今後の課題は、どう会員を増やすか、です。過去二回の研修では新規入会には至りませんでした。今般協議会にて基礎講座運営開始とのお知らせがあり、さっそく飛びつきたいところですが小人数の会なので講座運営費だけで会の年間予算を使い切ってしまうのが実情です。今後、市や社協に働きかけなんとか講座を開催し会員増に繋げることができたらと考えているところです。

長野県傾聴ボランティア連絡協議会運営「傾聴ボランティア基礎講座」について

第6回総会参加者アンケートについて、14号で掲載できません出したので、今号で報告します。

■第6回総会アンケート参加会員の回答（アンケート全体回収数66）より
この総会で提案された連絡協議会主催の「傾聴ボランティア基礎講座」のスタートに対するご意見を率直にお聞かせください。

①このような活動に	期待している	52
	期待していない	1
②自分の地域でも		
	開催（参加）したいと思う	38
	開催（参加）したいとは思わない	1

- ◇ 自由記述欄には、期待する声が多く、早く動き出すよう要望が多い。
- ◇ 「あなたのグループ、地域で講座を開くには？」というような一般的な講座開設マニュアルも作ってほしいとの要望もあった。
- ◇ 費用、講座の質、講師の資質などは役員会で検討。

9月に会員各グループ・県社協・地区社協に、講座運営についてのお知らせを送りました。すでに講座の要請もきております。

費用については、地区の社協からの助成金 + グループ負担 + 受講生負担 の3財源を合わせるなどが考えられます。行政の社会福祉担当などが助成金を出しているところもあります。地域の実情に合わせて工夫してみてください。